

庁議の概要

開催日：H18.1.4

項 目

1 第4四半期の取り組み等について【各部署】

内 容

1 第4四半期の取り組み等について【各部署】

[知事]

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。それぞれに良い新年をお迎ひのことだと思ひます。私は家の中に閉じこもって、ずっと寝たままテレビを見て過ごすという、そんな寝正月を決め込んでいました。

そうしてテレビを見ておりました、ひとつ気が付いたことがありました。それは2つの生命保険会社のコマーシャルが、ほとんど同じコンセプトだったことです。ひとつは若い父親が子どもと家族を連れて実家の田舎に帰省をするという話から始まるものです。家族団欒で話をしている、ふと隣の部屋に行くと、その部屋の柱に自分が小さいころに背が伸びるたびに親父さんがつけてくれた柱の傷が残っている。それで昔を思い出し、その後自分の小さな息子を柱の前に立たせて、三角定規を当てて新しい傷を作るというストーリーで、「心はお金で買えないけれども、お金に心をこめることができる」というキャッチコピーのついたコマーシャルでした。もうひとつの生命保険会社のコマーシャルも若い男性が主人公で、小さいころから学生時代の親父とのふれあいがフラッシュバックをしていきます。その都度親父さんが「がんばれ」とか「止まるな」とか「走れ」とか言ってずっと声をかけるシーンが出てきて、最後はきっとサッカー選手だと思ひますが、スタジアムでグラウンドに駆け出していく。ふとスタンドを振り返ると、親父さんが手を振りながら応援をしている。「夢を実現させるためには・・・」というようなキャッチコピーがついていたと思ひます。この他にも日ごろ身近にあって何気なく感じているもの、しかし、その背景には多くの方の協力があるという、身近な方への感謝を呼びかけるという類の製薬会社のコマーシャルがありました。そういうものを見ていて、確かにいいコマーシャルだという評価もあるかと思ひますが、だんだんひねくれが進んできている自分としましては、少ししらじらしさというか、わざとらしさというか、作り物の感じがしないではない、そんな若干の違和感がありました。

違和感ということで申しますと、昨年の忘年会でクリスマスイブに行きました谷村新司のディナーショーの時に感じた若干の違和感についてお話ししました。その時来ておられた面々は、政界では森元総理、竹中総務大臣、中川政調会長、また、経済界からは、トヨタの名誉会長、会長、副会長、六本木ヒルズや歌舞伎町の開発を手がけている日本最大のディベロッパーである森ビルの総帥、政治と経済を結ぶ郵政公社の総裁といった方々がおられました。それぞれに顔を知らないわけでもありませんので、会釈をしたり、何人かの方とはお話ししました。しかし、そうしたみなさんがリードしている社会を見て、この十数年自分が人生をかけてきている地方の実情、特に中山間で暮らすお年寄りだとか、非常に厳しい地域でがんばっている人々の姿を重ね合わせますと、非常に距離感が開いているという違和感がありました。心とか夢とか感謝とかいうことが大切なのは言うまでもありません。また、自由競争の中での、ある意味での優勝劣敗、そうした中で口をあけて待っていれば誰かが何とかしてくれるという風な依存体質を持つ人が後に追いやられていく実態、これは時代の流れとして避けられないことだと思ひます。ただ、日本の社会の中で進んでいることが本物かどうかという、偽物とはいませんが、何か本物らしくないというのを感じます。

では、本物というのは何かと思ひていましたが、昨日箱根駅伝の2日目の様子の中継でずっと見ておりました。往路優勝した順天堂大学が、箱根の山下り6区から7区まで順調にリードしていましたが、8区のキャプテンの難波君というのが残り5キロくらいの所で脱水症か何かになりふらふらの状態になりました。監督が出てきて何度も水を差し出して水をかける、しかし、だんだんふらふらが進んできて、駒沢大学や亜細亜大学に抜かれるということで、何人目かに抜かれた時に彼自身も力が萎えたんでしょ、

後何百メートルというところで止まりかけました。それでも死力を振り絞ってたすきを握って中継点まで行きました。解説の人は、「これが個人の競技であればとくにやめていた。駅伝という一人がやめたら全体の努力が台無しになる、そうしたレースだから彼も最後までがんばれたんだ」ということを言っていました。その彼が残り何百メートルふらふらになりながらどうにかたすきを握り締めて中継点に入る様子を見て「がんばれ」と思わず声をかけておりましたし、中継点でたすきを渡した時には、おもわず涙があふれるのを感じました。本物というのはこういうものではないかと思いました。

私たちの仕事は見ている人に感動や涙を与える仕事ではありませんが、チームワークで死力を尽くして最後まで目的達成のためにがんばるといことが本物の仕事として必要なのではないのかと思っています。

高知県はずっと改革ということに取り組んできました。そして着実に成果が上がってきていると思いますが、今こそ本当の意味での改革ということに、本物の改革に取り組んでいかなければいけないと思います。私を感じる本物というは、これまでの役所・県庁の中の仕組みだとか仕事の仕方から物事を推しはかって、その基準で外の現実をはかっていくような仕事の仕方ではなくて、外にある現実・ニーズというものを物差しにして、自分たちの仕事を変えていく、内向きから外向きに仕事を変えていくことではないかと思っています。単なるスリム化や削減が改革ではありません。それは仕事を変えていくための手段だということ、ぜひ皆さん方にも考えてほしいし、すべての職員のみなさんにもそうしたことを伝えて欲しいと思います。そしてその際には、昨年最後の庁議の時にも申し上げましたが、単にスリム化や削減を考えるのではなく、15年度に設けました経営方針の中で綴った県民のみなさんとの協働、住民力を活かすということ、今こそ県庁の骨に据えていく、そうした本物の改革を進めていく年にしたいと思っています。

もうひとつテレビを見ていてこれもキーワードだと思ったのは、ポジティブという言葉です。高知県では多分流れていないコマーシャルだと思いますが、東京や首都圏周辺では東京メトロ、昔の営団地下鉄ですけれども、このコマーシャルが盛んに流れています。例えば、「地下鉄で温泉めぐりをしましょう」というようなストーリーだとか、「日本橋で彼と別れを告げて浅草で甘いものを食べて立ち直る女性のストーリー」だとか、そういうものがいくつか放送されていて、その後に「東京ポジティブ」というキャッチコピーが流れている。また、もうひとつニュースを見ていますと、10歳のイギリスの女の子が書いた本が今イギリスで話題になっているというトピックスをしていました。その子は6歳の時に両親の離婚を経験して、ものすごくその時は落ち込んだ。その落ち込んだ自分を立て直すためにどうしたかということ、毎朝鏡を見たときに自分は昨日の自分よりも一歩前進をしているということ、5回鏡に向かって自分に呼びかける。また、昔の楽しかった時の写真をずっと見つめて、目をつぶって考えてみる。そうすると楽しい気持ちが心の中のイメージとして沸き上がってくる。そうしたものを綴った本で、それが大変なベストセラーになっているという話でした。10歳の女の子にそうした本を書かせるという時代背景・社会環境は大変恐いものがあります。しかし、そういった時代だからこそ、社会だからこそポジティブなものの考え方がとても大切なことではないかなと思いました。数年前にカラ元気でもいいいので元気を出そうということ、言ったことがあります。カラ元気というのは自らカラだということ、それを自覚しながら、それでも元気を出そうということ。しかし、ここまで時代と環境が変わってきたらカラ元気ではなく、今こそチャンスだという自信を持ってポジティブに本物の改革に取り組んでいかなければならないかなと、そうしたことをこの1年是非がんばってみたいと思います。高知県はとていいものもいっぱいありますし、いい人材もまだまだいっぱいあります。けれども、高知県というのは、お互いの足を引っ張ったりくさしあったりする、そうしたことに意味存在価値を感じている人が各分野に多すぎる感じがします。そうした足の引っ張り合いだとかくさしあいということをやめて、一致団結し、ひとつのことに取り組んでいくポジティブな姿勢が今高知県に求められていると思います。高知県庁も全く違いはないと思います。少なくとも高知県庁だけはみんながくさしあったり足の引っ張り合いをするのではなくて、一致団結して本物の改革に向けてポジティブに考え取り組んでいける、そういう県庁にしていきたいと思っています。自分自身はポジティブな思考で本物の改革に取り組む、そういう1年にしたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

[副知事]

今年はいろんなプロジェクトが始まります。駅前開発の件もありますし、功名が辻も始まります。今年新しい取り組みをどんどん前向きに進めていきたいと思ひますし、新しい仕事の仕方も含めて、皆さんと一丸となって進めていきたいと思ひますので、どうかよろしくお祈ひします。

[警察本部]

- ・ 安全な高知県、県民の方が安心して暮らせる高知県、県民と共にある力強い高知県警を目指してがんばります。
- ・ 昨年の交通事故発生件数の減少率は全国一でした。

[政策推進担当]

- ・ 駅前複合施設の構想については、関係部局と連携して3月には一定の整理をして、県民のみなさんに幅広い議論をしてもらいたい。
- ・ 人口減少、少子・高齢社会への対応については、3ヵ年で取り組んでいる。昨年度は2030年の姿と課題をとりまとめた。今年には市内での検討チームで議論を進めているので、具体的な取り組み方向の整理をしたい。2月9日(木)6時から県民文化ホールでフォーラムをするので、ぜひ参加してほしい。

[商工労働部]

- ・ 産業振興は地道に取り組んでいきたい。
- ・ 観光振興では、1月1日に空き店舗を活用して「功名が辻本陣」ができた。4月からの24万石博に向けてがんばりたい。

[港湾空港局]

- ・ 昨年は、FAZ撤退、大阪航路・京浜航路のフェリー廃止、下田の渡船の廃止など暗いニュースが多かった。今年には高知新港の取扱い貨物量は100万トン近くになるのではないかと考えている。平成16年の県内の貿易額は430億円と過去最高になり、徐々に景気は回復しているようだ。
- ・ 津波対策では、港周辺の企業をどうやって津波から守るかを考えたい。

[土木部]

- ・ 17年度には地域に根ざした公共事業の推進に努めてきた。現場での経験や判断力が必要なので、17年度から始めた技術職員の資質の向上の取り組みを続け、発注者の責任というのをしっかり果たしていきたい。

[森林局]

- ・ 指定管理者制度を早く進めたい。
- ・ アウトソーシングを含め仕事のやり方を変えることに取り組みたい。
- ・ 公共事業費の2割が新たな交付金制度となり、その要件を見ると高知県では採択条件に乗りにくい制度改正であった。
- ・ 新しい国の制度である林業支援生産システムでは、10ヶ所が採択される予定であり、これにトライをして、少しでも木材利用などの産業面で山の木が収入につながるよう努力をしたい。

[健康福祉部]

- ・ 社会保障制度改革、医療制度改革、介護制度の改正、障害者福祉法改正など、さまざまな制度がスタートするので厳しい年になるが、できるだけ県民が負担を感じないように取り組んでいく。
- ・ 献血が少なくなっているため、献血への協力をしてほしい。

[危機管理担当]

- ・ 南海地震対策では、理事所管ができて4年目に入るので、自助共助をどう展開していくのかを考えていきたい。18年度に向けた対応については、2月6日に南海地震対策推進本部を開き、その結果をパンフレットにまとめて県民に示し、2月議会の討論の資料にしたい。
- ・ 国民保護計画については、2月下旬に国民保護協議会で最終の意見をもらい、国に協議のうえ3月末に取りまとめたい。
- ・ 1月20日に災害対策本部の立ち上げの訓練を県警本部の講堂で行いたい。今回は全職員を対象にして、8時に南海地震が発生した場合どうなるのかということ、イントラの汎用アンケートシステムを使って集計したい。

[企画振興部]

- ・ 大学改革については、社会科学系の学部のあり方は昨年末に一定の構想を発表したが、年度内に全体構想をまとめたい。
- ・ 市町村合併については、昨年に引き続き合併推進審議会を開催し、年度内には長期的に見て望ましい市町村の将来像を、また、新年度には市町村長の意見も聞き、当面実現を目指す合併パターンを検討してもらうことにしている。

[文化環境部]

- ・ 指定管理者制度については、たくさんの施設を持っているので、4月からのきちんとした移行につなげたい。
- ・ エコサイクルセンターについては、日高村との協議が整ったので、工事着手に早急に取り組みたい。
- ・ 県民文化ホールの4月からの空調設備工事（12月補正）に向けて入札を行い、また、休館期間をできるだけ短くしたい。
- ・ 高知県立文学館では、企画展を始めているので、24万石博につなげていけるような取り組みをしたい。

[海洋局]

- ・ 県内1漁協構想に着実に取り組んでいきたい。

[産業技術委員会]

- ・ 高知大学と製薬メーカーとの間で魚のワクチンに関する産学官の連携について大筋で合意しているので、1月には契約締結したい。その後、新会社の設立構想にも協力していきたい。
- ・ 公設試験研究機関の役割やあり方を整理し、19年度の組織改正につなげたい。

[企業局]

- ・ 水力発電所上流域の森林整備を10年くらいかけて進めたい。この1 - 3月まではそのための準備をしたい。

[病院局]

- ・ 平成12年度から起債の制限を受けるようになっていたが、経営健全化計画に沿って取り組みを行ってきた結果、来年度からは起債による施設整備が行える見通しである。

[競馬担当]

- ・ 年末の高知県知事賞に併せて、阪神タイガーズの藤川選手に来ていただき協賛レースを開催した。その結果、年末年始の売上が目標を上回り、入場者数も昨年を上回った。こういった仕掛けが大切だということに改めて感じた。今後も赤字を出さない運営を続ける努力をしたい。
- ・ ハルウララについては、3月に引退レースをとということで調整していたが、不調に終わっている。今後どうするかをもう一度検討したい。

[情報化戦略推進担当]

- ・ 10月から地上波デジタル放送が始まるが、受信できるのは計画されている中継局が全てできて94%、共同受信施設等で3.4%であるので、合わせても97~98%にしかならないので、これをどうするかが課題になるので、それに向けて取り組みたい。
- ・ 庁内では大型コンピュータのダウンサイジングを進めたい。

[農林水産部]

- ・ 園芸農業の振興について、農業団体の主体性を誘導しながらしっかりとコミュニケーションをとり園芸の建て直しを進めたい。安芸の農家の系統離れが深刻なので、力を入れて取り組みたい。
- ・ 中山間の振興品目の導入・定着については、90品目くらいリストアップしているのでしっかり調査・評価をし、できるだけ早く地域にメニュー提示をしたい。
- ・ 有機の学校については、12月現在で12名が内定しているが、15名程度を目処に募集を進めたい。4月開校に向けて、嶺北4町村やNPOと共に塾生の期待に応えるカリキュラムをしっかりと作り開校準備を進めたい。

[監査委員会]

- ・ あら探しではなく、建設的な監査を目指したい。県庁の改革につながる監査をしたい。

[出納局]

- ・ 会計事務の適正化については研修の成果もあり、去年に比べてよくなってきているが、同じ出先機関で同じような不適正な項目があるので、重点的に再指導をしたい。
- ・ 契約事務や財務事務などでの不適正な処理が多いので、基本的な研修をする準備をしている。
- ・ 7時消灯がスタートしたが、4月、5月に支出審査が集中するので、平準化のためにもできるものは早めに支出してほしい。

[総務部]

- ・ 特別職の報酬等の改正については、高知県特別職報酬等審議会に諮問して、2月議会で議案を提出したい。
- ・ 指定管理者に対する継続審議分を早急に取りまとめ、2月議会前に各委員会を開いていただき、できれば2月議会の冒頭での可決をしていただければと考えており、これに向けた対応をしていきたい。
- ・ アウトソーシングの実施計画については、各部局の計画のとりまとめをしている。アウトソーシングに関しては、庁内の職員や議会に正しいメッセージが送れているかといえば不十分なので、正しいメッセージを送るようにしたい。
- ・ これからの県庁は大変厳しい状況に立ち向かわなくては行けないが、若い職員等の意欲がそがれないよう取り組みを進めなければならない。各部局でも所属職員に対して部局の目標に向けた取り組みの説明などに努めて欲しい。

[教育委員会]

- ・ 土佐の教育改革が始まって10年という区切りの年になるので、取り組みの検証と総括をする必要がある。子ども・保護者と教職員による学校評価、教育に関心の高い県民による評価、教育研究者(専門家)による評価をいただき、今後のあるべき方向性の整理をしたい。厳しい評価になると思うが、きちんと整理をして、何に焦点を当ててどういう方向で取り組んでいくのかを明らかにできれば大きな成果であると思うので、ポジティブに取り組みたい。